



紀伊國名所圖云

三之卷下  
海士郡



紀伊國名所圖云

三之卷下  
海士郡



紀伊國名所圖會卷之三下

善寺 <small>（善寺）</small>	住吉神社	榮谷觀音 <small>（榮谷觀音）</small>	蛭櫻 <small>（蛭櫻）</small>	宇佐八幡宮 <small>（宇佐八幡宮）</small>	極樂寺 <small>（極樂寺）</small>	貞沙神社 <small>（貞沙神社）</small>	磯乃浦 <small>（磯乃浦）</small>	十輪寺 <small>（十輪寺）</small>	伽陀寺 <small>（伽陀寺）</small>	竹岡八幡宮 <small>（竹岡八幡宮）</small>
住吉神社 <small>（住吉神社）</small>	八幡宮 <small>（八幡宮）</small>	諏訪神社 <small>（諏訪神社）</small>	貴志甚志 <small>（貴志甚志）</small>	洲主神社 <small>（洲主神社）</small>	田中神社 <small>（田中神社）</small>	萬福寺 <small>（萬福寺）</small>	二星上濱 <small>（二星上濱）</small>	古屋の泊 <small>（古屋の泊）</small>	西福寺 <small>（西福寺）</small>	弁財天 <small>（弁財天）</small>
龍取德持寺 <small>（龍取德持寺）</small>	親通寺 <small>（親通寺）</small>	宗圓の松 <small>（宗圓の松）</small>	大蔵神社 <small>（大蔵神社）</small>	稲荷神社 <small>（稲荷神社）</small>	親月持跡 <small>（親月持跡）</small>	八幡神社 <small>（八幡神社）</small>	春日神社 <small>（春日神社）</small>	揚枝の舟 <small>（揚枝の舟）</small>	常行寺 <small>（常行寺）</small>	迎々坊 <small>（迎々坊）</small>
名宮八幡宮 <small>（名宮八幡宮）</small>	泉藏院 <small>（泉藏院）</small>	北宮の坊 <small>（北宮の坊）</small>	松江 <small>（松江）</small>	春日神社 <small>（春日神社）</small>	寂光院 <small>（寂光院）</small>	名物系切餅 <small>（名物系切餅）</small>	光福寺 <small>（光福寺）</small>	潮入橋 <small>（潮入橋）</small>	三國山 <small>（三國山）</small>	春日神社 <small>（春日神社）</small>

祇念寺

御所の井

蓮華井

形見浦

淡路神社

中言神社

友成

八重子

送祖神

圓光大師教化の圖

石浜院寺

八王子橋

親善堂

形見山

祝詞舎

竹後堂

地の小名

秋ヶ瀬

深山

光源寺

八王子山

行者堂

和布製圖

神所

昆沙門堂

沖の崎小名

神嶋

小所七度濱

報恩講寺

昆沙門堂

新田店

石字堂

古城路

神所

ふ動堂

五ヶ所嶺

龍浦

八幡

光明山善導寺

洞村末のあり善導寺

○本尊阿弥陀如来

座像 尺六寸

○服檀弥陀三尊御影

真像のまきりて来迎の姿なり天竺に  
上人の御影なりて世に傳へたる中興定雄

○親鸞上人掬ひ給ふ像

長き尺。○上人の自地ありて杖をたぐりて  
と家持掬ひ給ふ像なりて世に傳へたる中興定雄

○鎮守天満文

大中小の三尊ありて世に傳へたる中興定雄

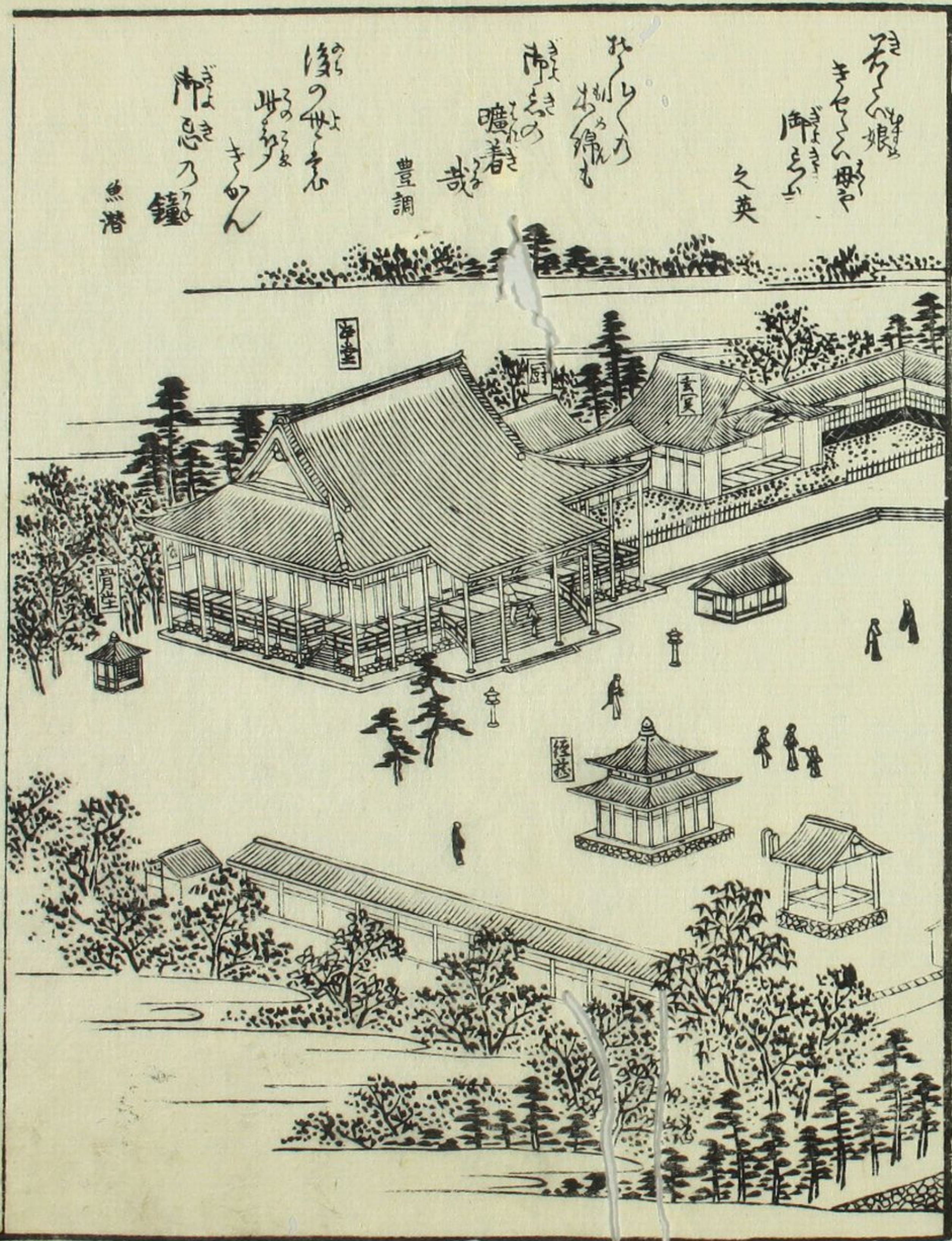
當山の皇二百代後園融天皇の御代永承四年妙法光  
上人の冥卷りて尚昔寺門廣莫の大仏場ありて始  
御上人の俗姓とありて上野國の人にて父の利根  
の御来りてやる英雄の士ありて初老のありて  
一子ありて夫婦相とありて世に傳へたる中興定雄  
親音大士とありて持念に傳へたる中興定雄  
寺持心ありて世に傳へたる中興定雄

貞和五年の秋客見端の男を産まうけぬさたおのち父母  
のほむるこも唯掌中の珠のごとく釣奪るるうらまひあ  
さかざるをけり是上人の出世るり上人初めて凡あは世の  
名の戯まほも合掌頂礼して護ふたの必と貝葉を備すの  
おもきありんる人奇異とせざるありあふ父利根君を  
文和四年系師の乳ふ致した  
後醍醐天皇二十一年 是下り上人  
とあり子あり母とのむと養ふけは九歳にありあひが  
ふと一父君の大祥忌なまじり上人未ださくまふ母  
公よりい父の善授と吊らんとお家傳法にまじり  
ふとんをいふいごと母とありてこもはせしめありび  
かたまたたてて享く年月をほむるに先降早くあめ  
まきく又もや七廻忌とせぬあ上人の素願承切あふ康安  
元年は歳二十七とて月五廿五郡の戸村ある普光山普光寺

講寺に投して普光法師の遺身と成たまるりゆて上人寸法と  
指と雪の意に心瓜とじあひいふ未だなくあはれて衆侶  
に秀て聖教の大綱核をせんとくは圓光法師やうつ  
衆徒との秘要を授け山楨佛戒の血脈瓜はる元祖法然  
上人より九世の三流西の門の棟梁とありあつたに三々  
乃ち伽藍建立の費願瓜を 法玉に授け應してその地を  
おめあふいぐ道亦あて 奉創の地はこれより五二丁辰巳の  
おはありしと後世にたうつたに 一字と  
造建し道俗の集め一ゆる永不失の法法とてあつたに益  
の利生ありあつたりしを近の美財其の徳とあつた系  
の廉くぐと星の撻かおとく別院とあふ 東近江  
利貞庵 崇徳寺 若狭寺 法城寺 山の別院 教はるるの其を瓜  
あつたさびく 鯉昌ありけるおろ普光法師退隱まよつて  
除夜の堂にまうたにまうてぬまし普光山の系二世の位







後世の心  
 此の心  
 寺の心  
 鐘  
 魚  
 豊調  
 之英  
 紀藩  
 紀藩清洲



初春遊總持寺  
 祇林雨散後  
 杏過行八黃  
 雀柳花度綠  
 揚帶露新苔  
 深金跡沒樹  
 密鳥聲頻幾  
 歲投簪客底  
 憐此地春  
 紀藩  
 紀藩清洲

總持寺  
 總持寺

ゆりてあつてかきく諸くもぎやうのなるうも  
園布田郡よりおろく十八箇の梵刹はさうの  
志んく福くぬたつ菩提寺にきこちゆりした  
ゆり山境にさうせたまひ曳きたまふと海と  
さうゆらうえんてなちさうらひるやう昔法  
後世におろそかにはさうは急ぬさび枝葉あはせ  
しとありしうぶささしむねは経さふ萌を  
まやうしうあはれしむ枝葉修さうてさう  
薬膳都くさうさうらう後人さうは名に  
杖さうさう上人の法徳はさうのさうな  
實にも枯る樹もさうさうをさう草創あ  
ゆらねばさうさう敬大さうさう一  
法徳さうさうにさうさうの龍象さうさうの麟鶴さう

小雲集にこそまの檀林をりか  
正親所院乃兩帝志なりふ勅さうさう論旨なり  
官寺小命さうさうのさうさう代  
園主の菩提をさうさうさうさう  
よりさうさうせんさうさうさう佛さうさう  
滋く官小乃光輝日くにあさうさう  
○什寶の畫像は陀如來  
だんさうさう新治郡御法んさうさう  
百さうさうさうさうさうさうさう  
あさうさうさうさうさうさうさう  
○元祖法慈上人真此乃舍利三顆の元祖大所也  
形と御影のさう外寺寶杖さうさうさう  
あさう



九頭神社  
研棒銀



宗園の松

貴志村より山の上あり

○勝園のよき松野家の老上田宗園も人

世にもきこえに英雄にしてかゝる凡流の道おも暗りさざり  
と名こり首座のよき宗手はうゝ一株の松と極くなふ其  
真操瓜賞でしき造愛の樹ありとて

與諸子遊榮谷分題賦得冬嶺孤松

詩意咏宗固松宗固松在葛嶺西梅村

祇南海

矯く嶺頭樹亭く天外條根え在僻境名獨自前朝。

偃蓋而常抱貞操霜不凋英雄亦陳跡萬古望名堯。

北園山碧岩院

日村あり

本寺観世音

不詳

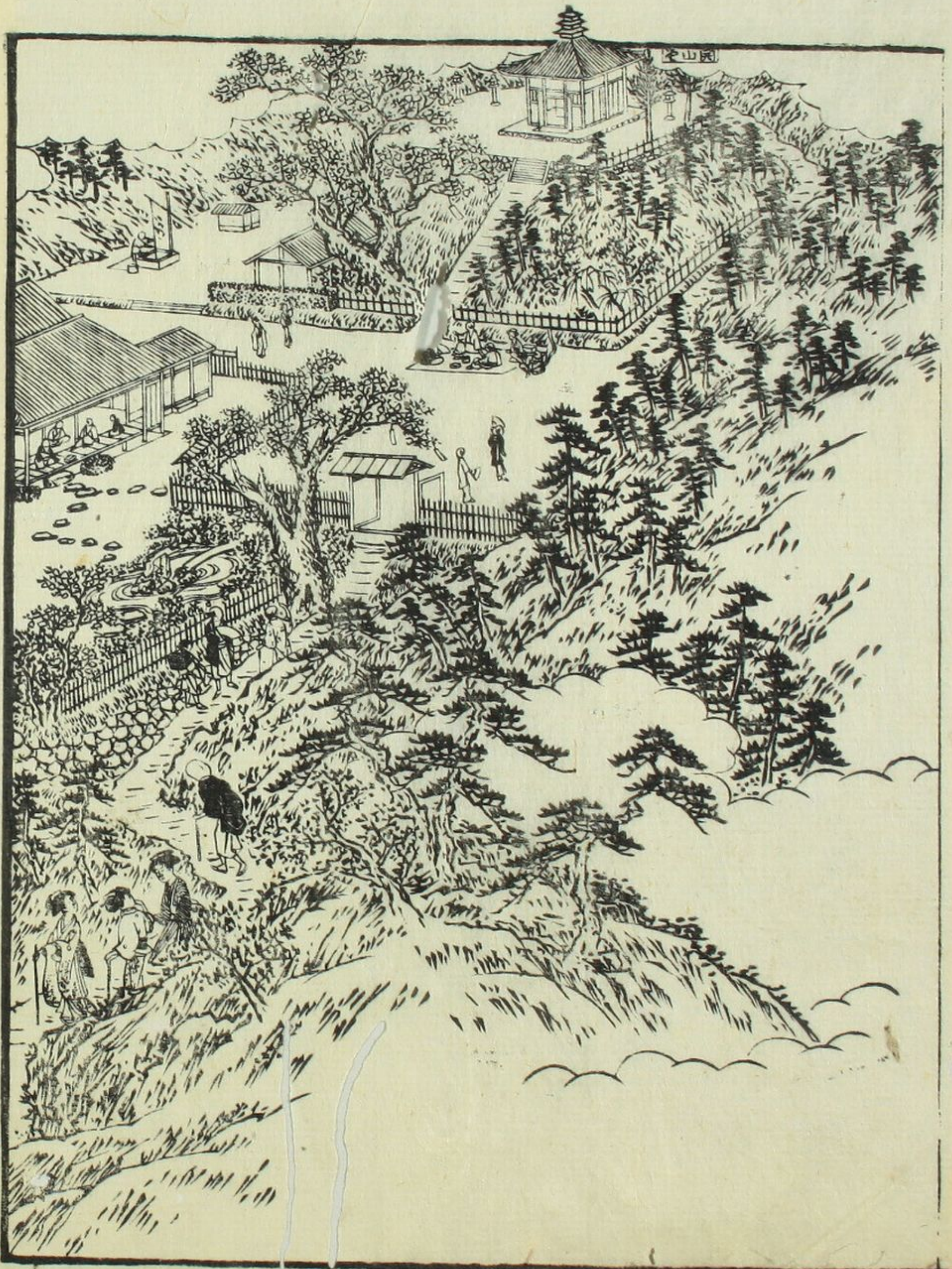
尚も吹上律林寺央のわ尚の用巻にしてわ当彼所を退  
院のわら家ふさ々に修する是則終焉の地也○尚寺に婉  
様乃大樹数株ありて沐生のはいつるは観と遠道の  
諸人思ふ冬日に樹下ふあそぶとある実園園の志記あり

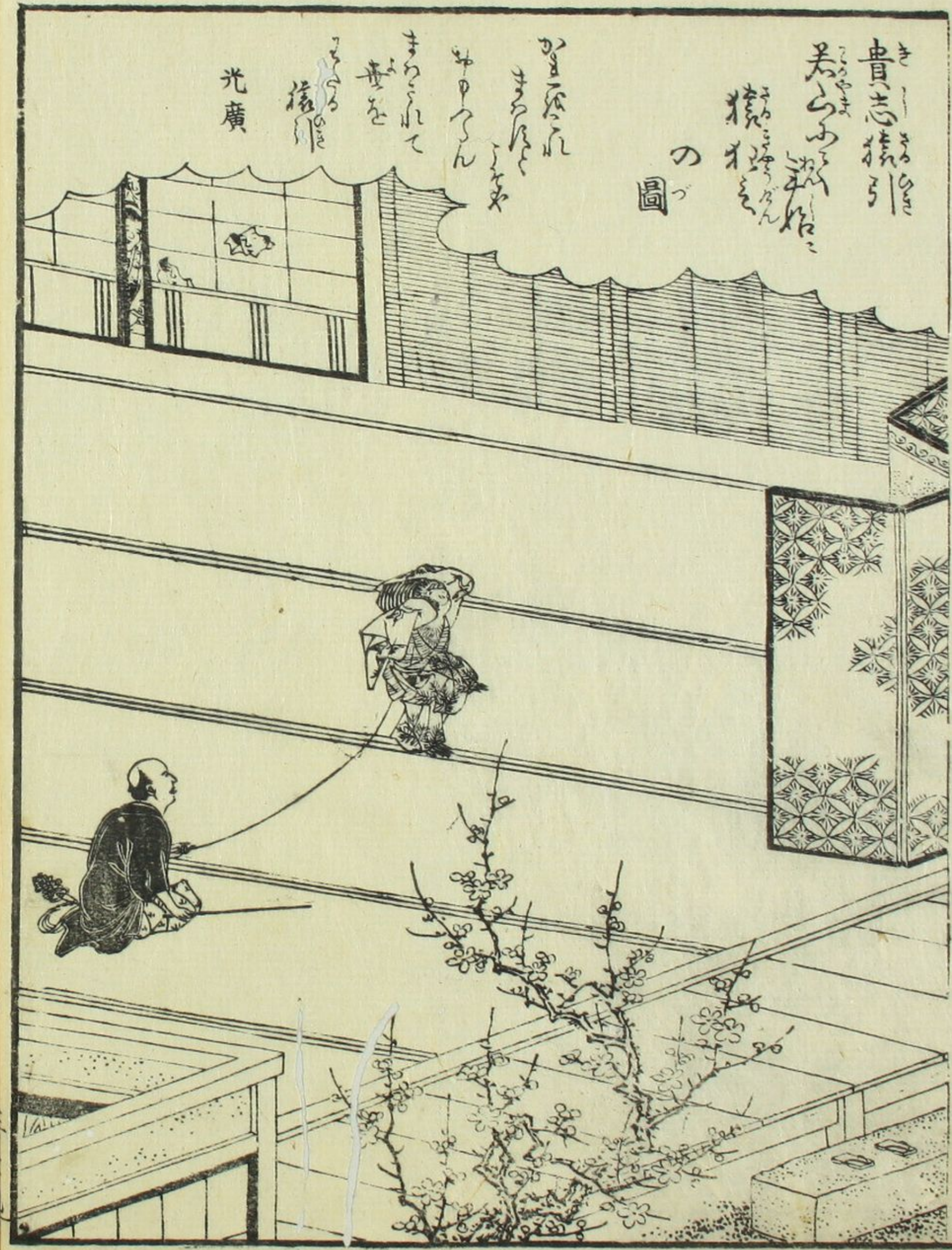
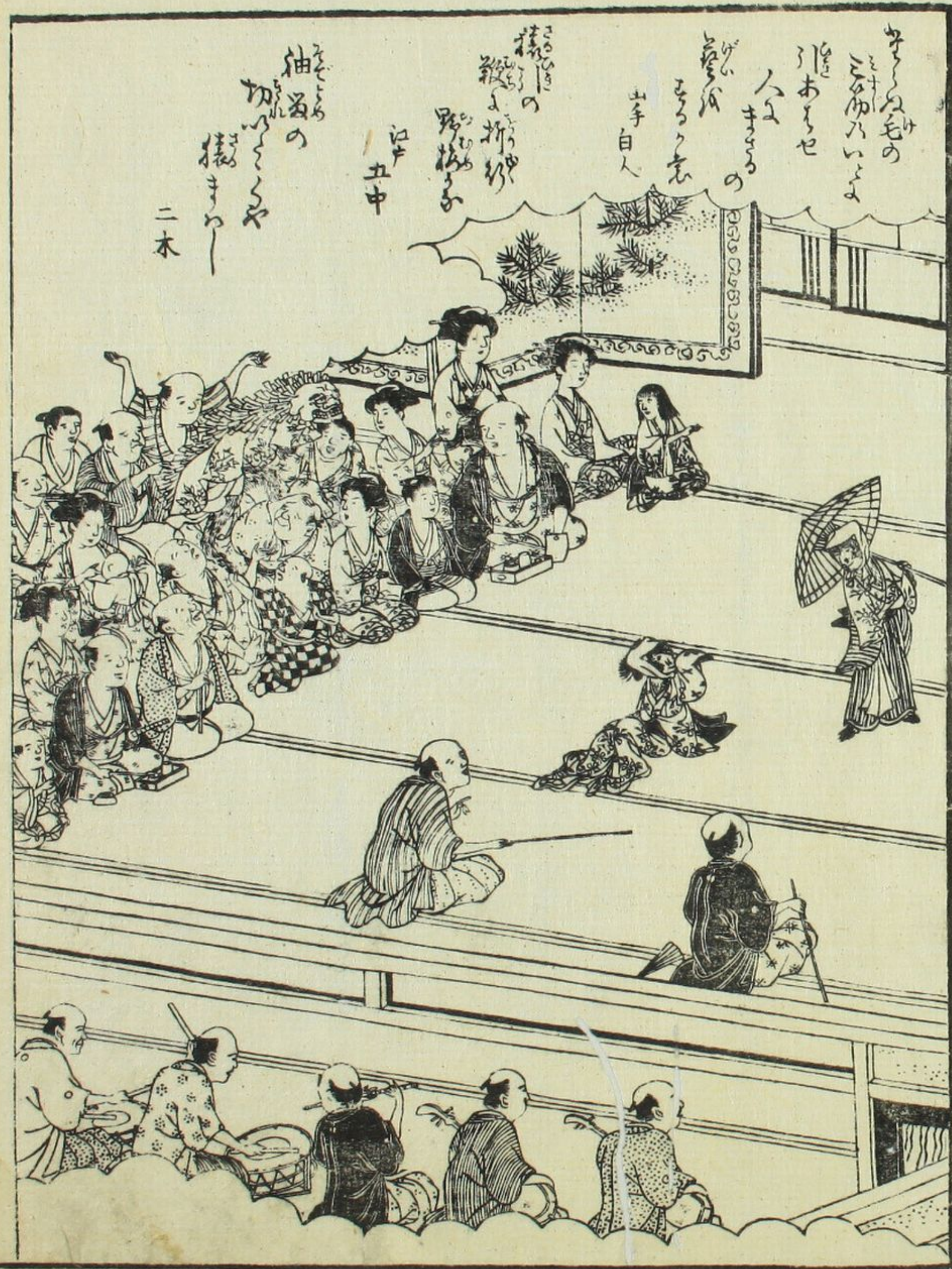
夾山



借入道本カ  
 蕭鳴州三本邦ノ  
 櫻ヲ詠スル詩一  
 東來初見此花奇  
 無限春叢讓白眉  
 的皚瓊珠三百斛  
 瓊玉樹萬千枝何妨  
 穠李先春艷不與寒  
 梅遜雪枝若使須臾  
 裡種清光多似桂閑時

空山







岸村行宮

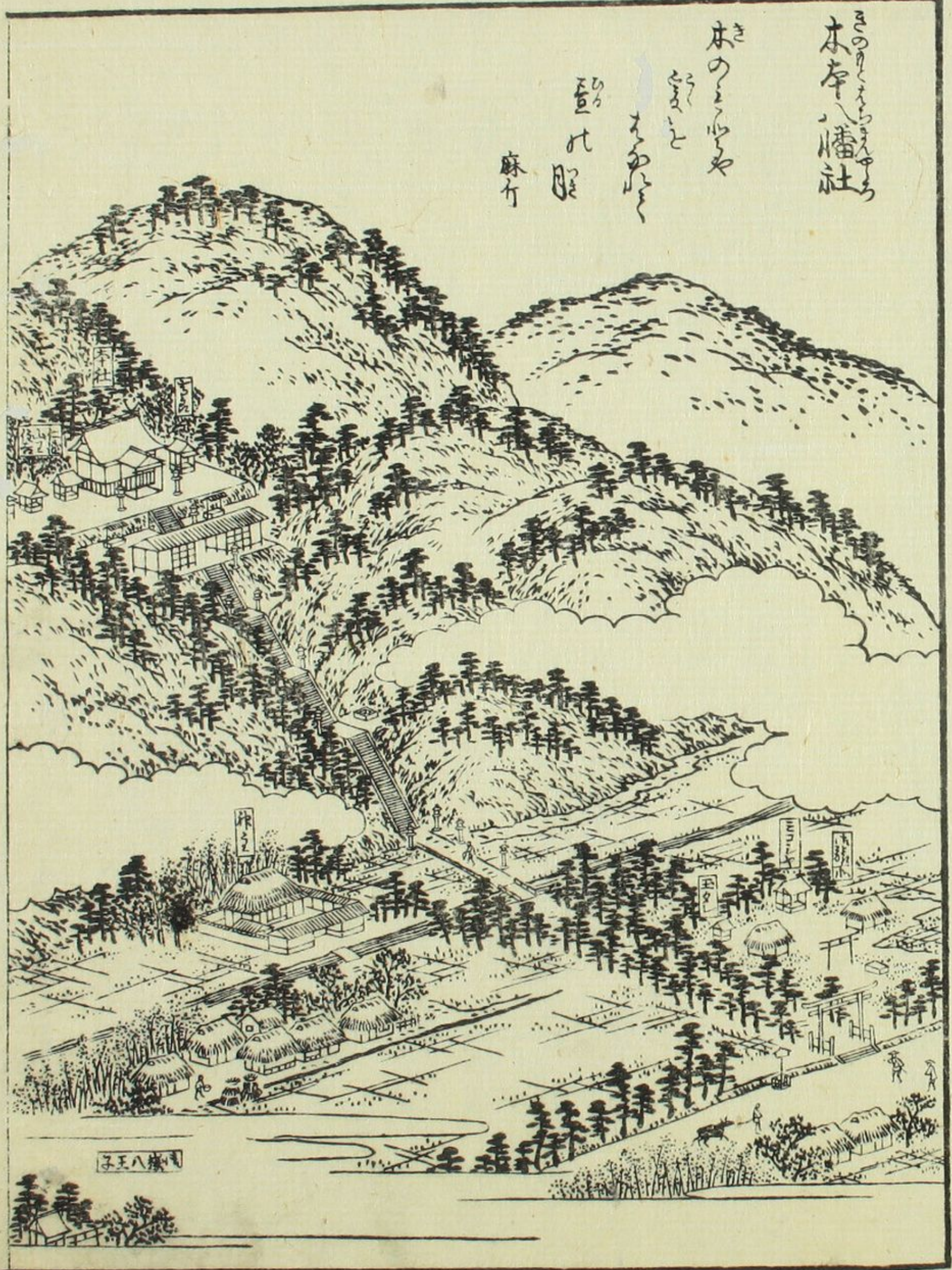
紀伊國守小野朝臣小執實從此而還詔賜絕三千足綿二百屯云云  
 岸村行宮同甲申到和泉國日根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨  
 紀伊國守小野朝臣小執實從此而還詔賜絕三千足綿二百屯云云  
 岸村行宮同甲申到和泉國日根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨

猿引貴志其兵坊

猿引貴志其兵坊 猿引貴志其兵坊 猿引貴志其兵坊  
 猿引貴志其兵坊 猿引貴志其兵坊 猿引貴志其兵坊

福原山觀音寺

福原山觀音寺 福原山觀音寺 福原山觀音寺  
 福原山觀音寺 福原山觀音寺 福原山觀音寺



本寺八幡社

本の心也

麻竹 魚丸

八幡宮

本庄本村の

祭る神三座

本庄の産神

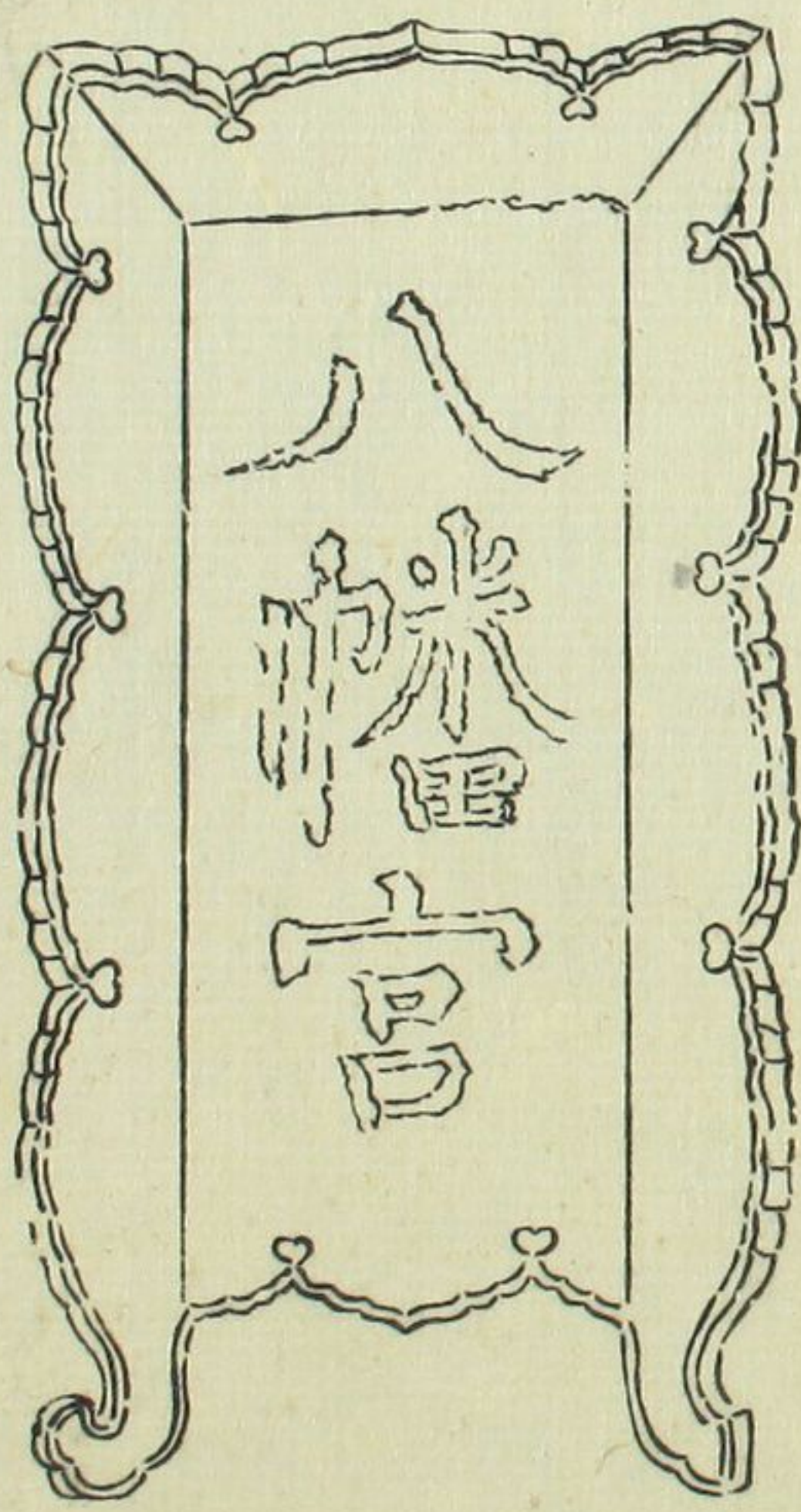
例年毎年八月十五日

○當社より

由縁ある宮居ある一祝官  
向某なる家小嘉慶應永永享の間平氏盛前豊永守を盛  
中務丞盛直未が神代寄附の帖敷ありまことなり再表し指る  
とこの類ありとて是を藏せり然る小野道元神代帖敷の筆さる  
正なりとてしある一追討藏免一箇の既ふ格くふて改め  
たるを又長二年と記り其古く傳へたるに唯八幡宮  
の二字と題せり其初風雨に剝蝕せんといふ皮とて  
字の上は法にあらざるに縁とて信のありたるに文  
をいれしと換ふるに陽起といふとありはるはる其運  
筆をんる不注頂古雅室に跡うづらるるの蓋中条以  
降天下下之の權とあり世々々々たる神社佛國のほけ火火  
羅とて傳ふの重宝珍室焼亡せざるの安禱あり今この

本家のとて現る存せるは豊永の甚なるにらるるんや捨古  
十種がといは比摩利帖木のかと用ひたる凡海内公をうとて  
どもれけは漏を免まは鳴呼准り野不送賢ありとらるる  
とて好古の士のてあ其楮圖とたふ出た

古類の圖  
小野道風筆



長二尺四寸五分  
横一尺八寸五分

葛城山

葛城山 葛城山は和歌山府の四郡に亘る山なり... 二十里に亘る山なり... 葛城山は和歌山府の四郡に亘る山なり... 二十里に亘る山なり... 葛城山は和歌山府の四郡に亘る山なり... 二十里に亘る山なり...

堀の浦

堀の浦 堀の浦は和歌山府の海に亘る浦なり... 堀の浦は和歌山府の海に亘る浦なり... 堀の浦は和歌山府の海に亘る浦なり... 堀の浦は和歌山府の海に亘る浦なり...

塩竈地藏尊

塩竈地藏尊 塩竈地藏尊は和歌山府の塩竈に在る地藏尊なり... 塩竈地藏尊は和歌山府の塩竈に在る地藏尊なり... 塩竈地藏尊は和歌山府の塩竈に在る地藏尊なり... 塩竈地藏尊は和歌山府の塩竈に在る地藏尊なり...





恒吉神社 小嶋村 一村の産神ありて例祭毎歳九月晦  
 八幡宮 かたがた村 一村の産神ありて例祭毎歳九月十日  
 稻荷大明神 狐崎村 多る神二座 会稲姫令○本主神名此は從四位上  
 勝手神也神といふありてこれに例

祭毎歳九月十六日

松江 松江府中松江あり紀の川の邊より西の紀の郡の邊にありて  
 旧名これに松江ありて今も松江と云ふ也

松江の風色たるも小の磯くも青の風景を合ぐ金銀の  
 色と磯く南の磯くたる蒼海月をほく磯の邊と  
 唐たり松江老松の幸盤たる冬の雪は白濱を  
 汐の鮮明たる夏の雪ともうり千維の都城は外  
 に從へ二子の島渚波浪に浮きまき水人の影まる波を



松江濱  
 蛤貝

小貝掛人

遠とに

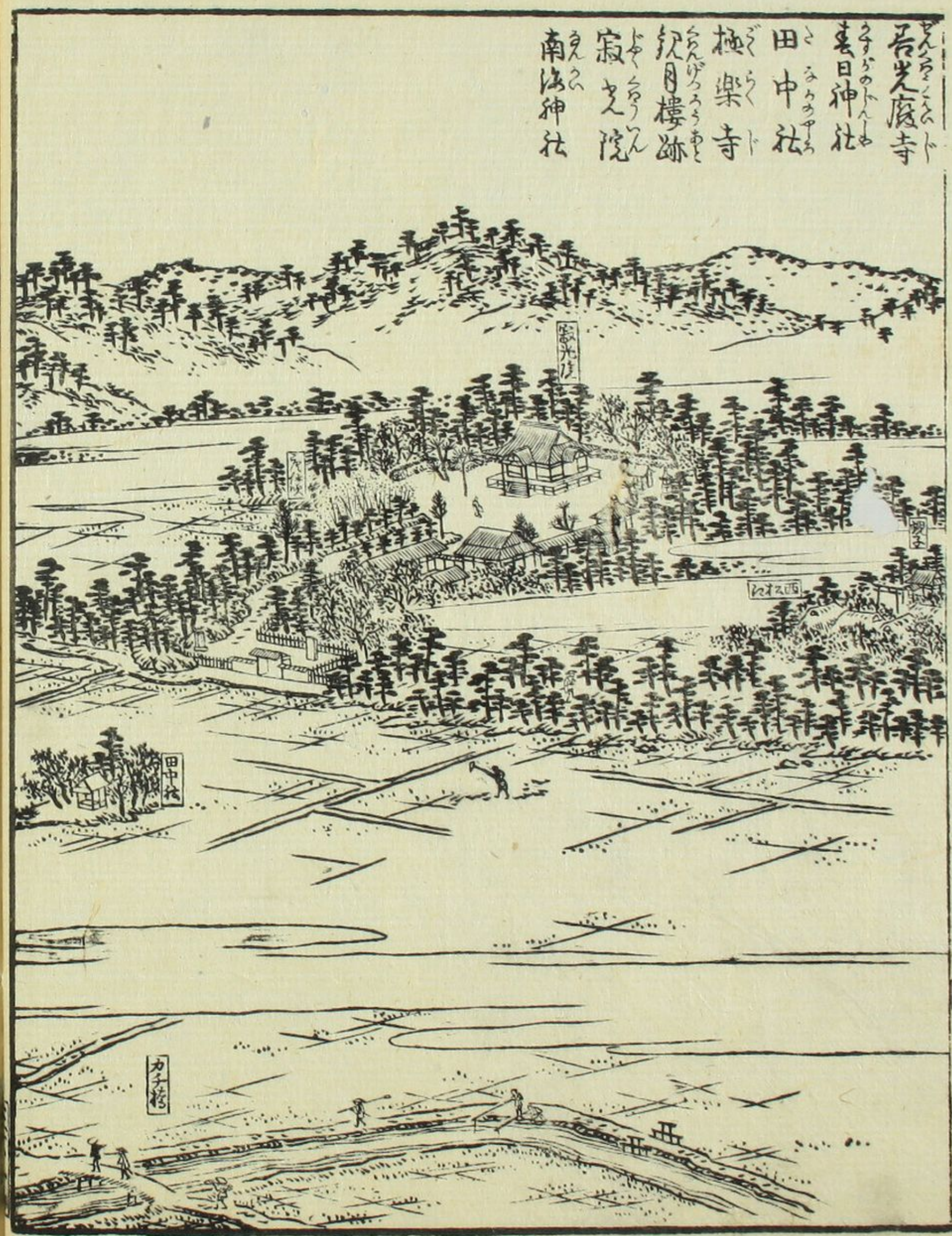
春の風

洛定雅





鳴人の  
 ありや  
 きくまひ  
 雲霞  
 嘯山  
 松葉  
 のりや  
 歳  
 の花  
 支考



吾光庵寺  
 春日神社  
 田中社  
 極楽寺  
 銀月樓跡  
 寂光院  
 南法神社

○當寺の由良與國寺は燈圓師の遺法を承るるの元基に  
して日蓮禪宗の淨刹あり。其後也持者の宗門明秀  
上人も修心會の宗門に宗を承りてより一國の緇素靡  
俗の心は。其の宗を承りて長二年法嗣の徒播良明石部魚角庄  
而も教傳上人の宗を承りて中興して淨土宗流の因縁あり  
寂之院 日村の五徳はまあり 本寺の阿弥陀如来 長き大の徳 當院は古く  
南叡山大同寺の別院ありしが寛延二年九月勢川津城支藤  
堂侯の家士何某も人殺仕の後難逃して宗門おるとりて本  
寺にして中興の祖とす

松江禪菴探題賦得僧家月 詠南海

銀蟾澄寶地 玉露浸金田 彩射毫光直 輪筆禪影圓

更深桂子落 境寂木魚懸 誠向秋懷曉 虛空何處天

觀月樓遺跡 日村海邊の遺跡ありしと云ふは昔當院の領地賞賜地跡の地あり

如來集

南海神社 西松江村あり 本寺の神格はもと從四位上海部

例祭毎歲十月十六日 海部餘りのりら瓜搥

萬福寺 日村あり 本寺の神格はもと從四位上海部

當寺の真言宗ありと云中古流慶の後傳記を失をねば  
草創の半應洋たうだ堂あり古堂一棟あり枝葉四つ一俯伏て  
ま牛のどくにて千載伝應わらん名松と云ふなり

八幡宮 本願村あり 一座相殿あり 一村の産神にして例祭毎八月

十五日 本願村あり 本願村の創建ありと云ふなり

名物糸切餅 日村の多岐路の茶店に傳へるなり其製法ありら瓜向たりらねて

磯浦 本願村あり 本願村の産物ありと云ふなり

本願村の産物ありと云ふなり



蒼茫海天迫  
窮目浩烟波  
朝宗江漢水  
不作一滴多

北津亭



江南一夜競  
紛華滄海秋  
高雲不遮羅  
綺能留明月  
色清光偏在  
莫愁家

縣周南

奉服八幡宮  
二里ヶ谷  
八幡宮  
道元非人由良  
雄生産之石  
碑あり

漢陽



春日大明神 日向村にありは

光福寺 日向村にありは

十輪寺 日向村にありは

阿伽井 日向村にありは

古屋の泊 日向村にありは

春日の社 日向村にありは

凡雅集 日向村にありは

洞の 日向村にありは

錫杖の井 日向村にありは

入橋 日向村にありは

轉法輪山伽陀寺 日向村にありは

金剛童子社 日向村にありは

夫由山神變大菩薩 日向村にありは

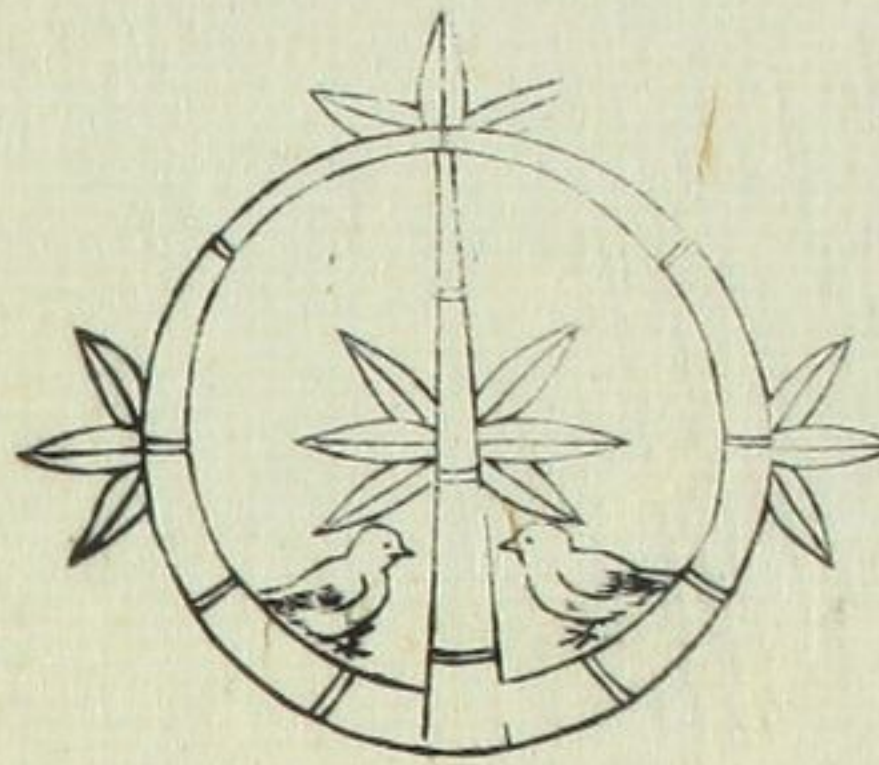
人皇六十代醍醐天皇の勅願によりて七堂伽藍と御創建  
ましくけりて尊ん其場あり住古大門の攝堂塔の莊嚴  
鐘樓井橋建ち僧坊甍をこつて山魏く造りて  
むんふ天の兵火よ鳥なくあまるとを造りて  
御代のはれ願ふて毎年二月廿二日の神演の  
より集り来りて女ヶ島とてめ當境にある本  
なる修治一室非延長天下安全の護摩信  
とて悔るをまへて聖護院宮に  
の砌りてあは道院に  
わくてあ人の回例に  
可ひあり ○ 什寶神變大菩薩御  
○ 女ヶ島深蛇王の  
○ 行者母公形



湯杖井の  
 加陀寺  
 西御寺  
 常約寺

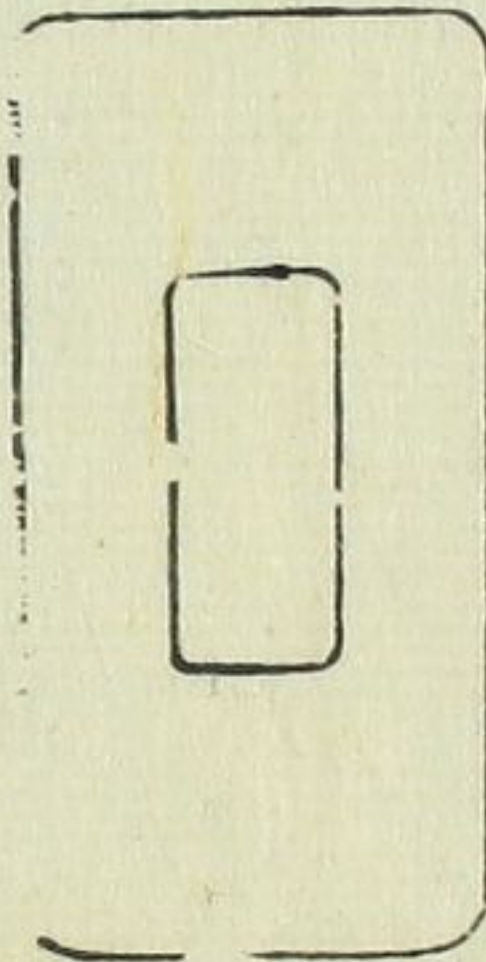
見の清鑑  
 小園丸の  
 〇は外影の硯  
 同上

篠丸印文

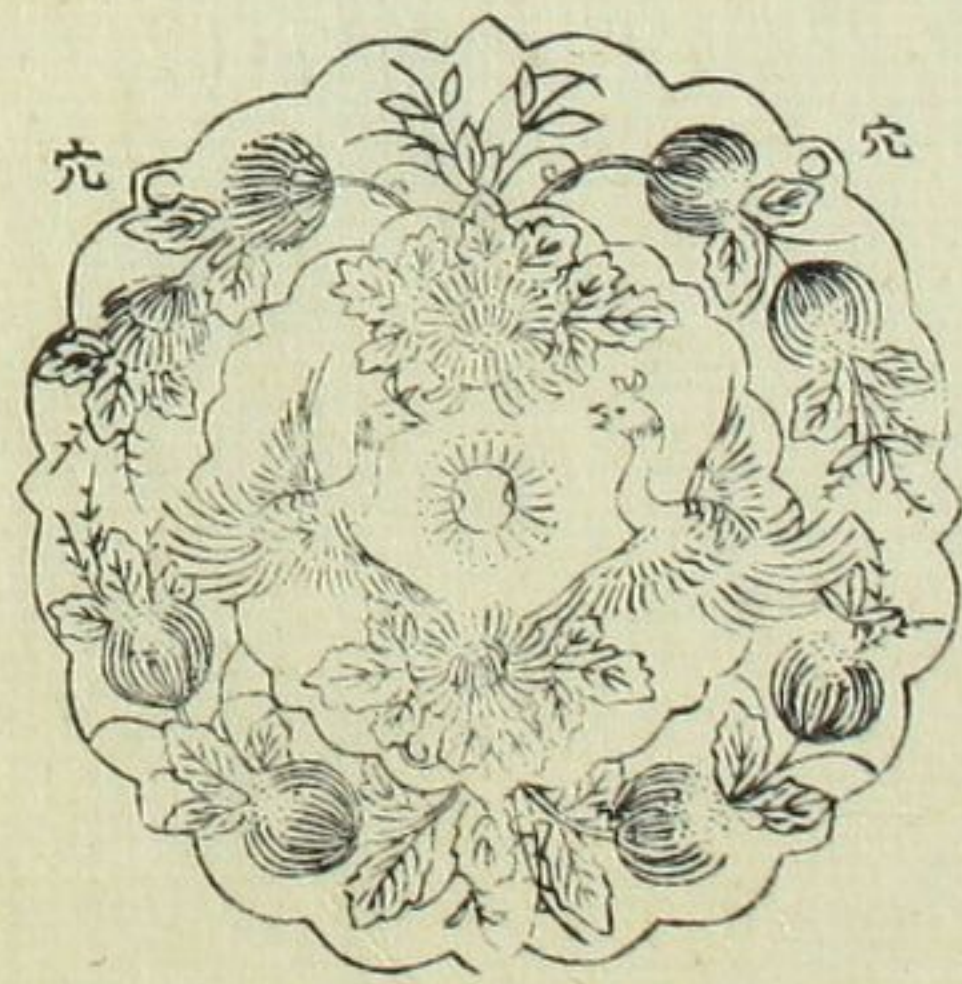


外龍の硯

古鏡如明月  
 幾人照到今  
 不見古人面  
 唯見古人心  
 玉山秋儀

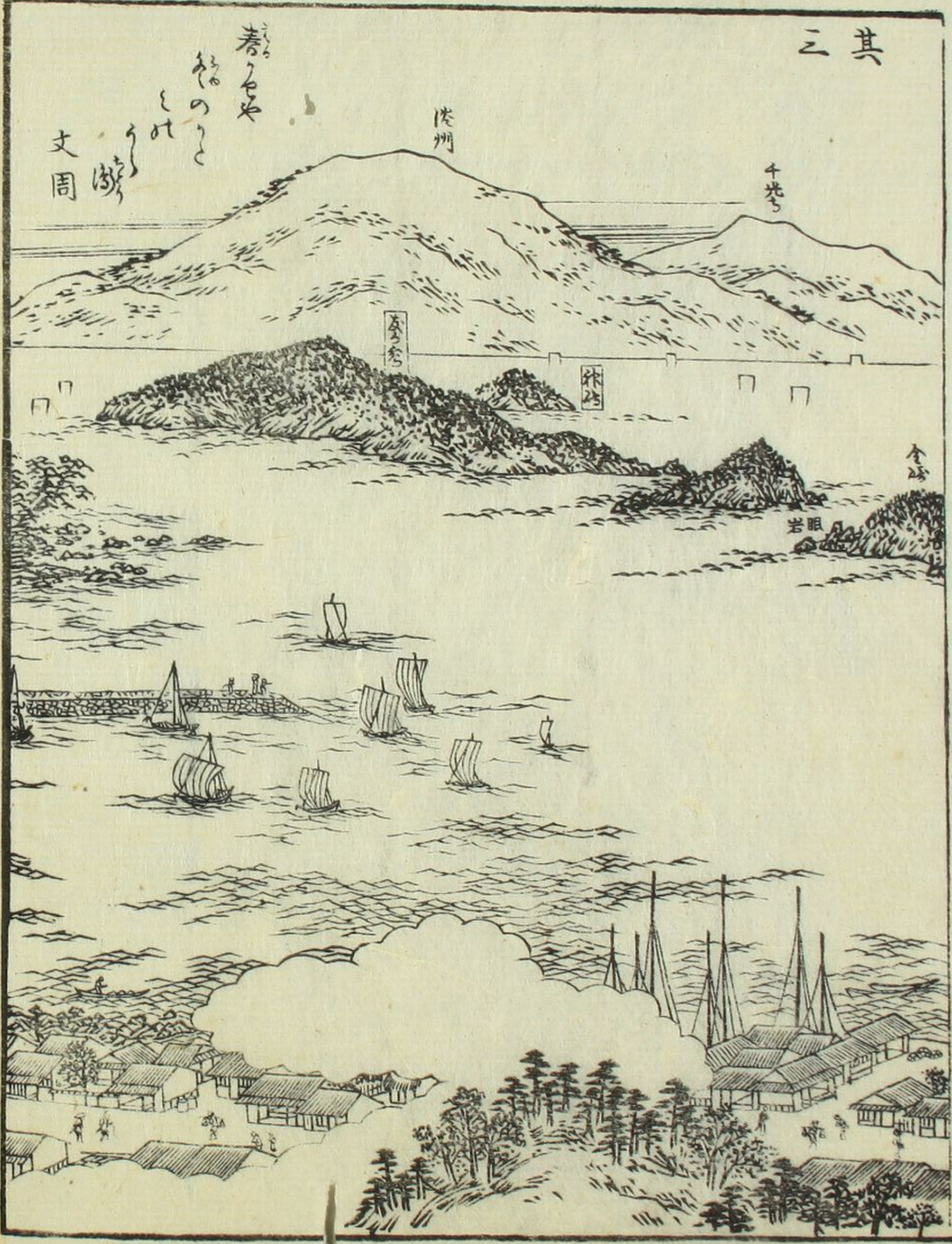
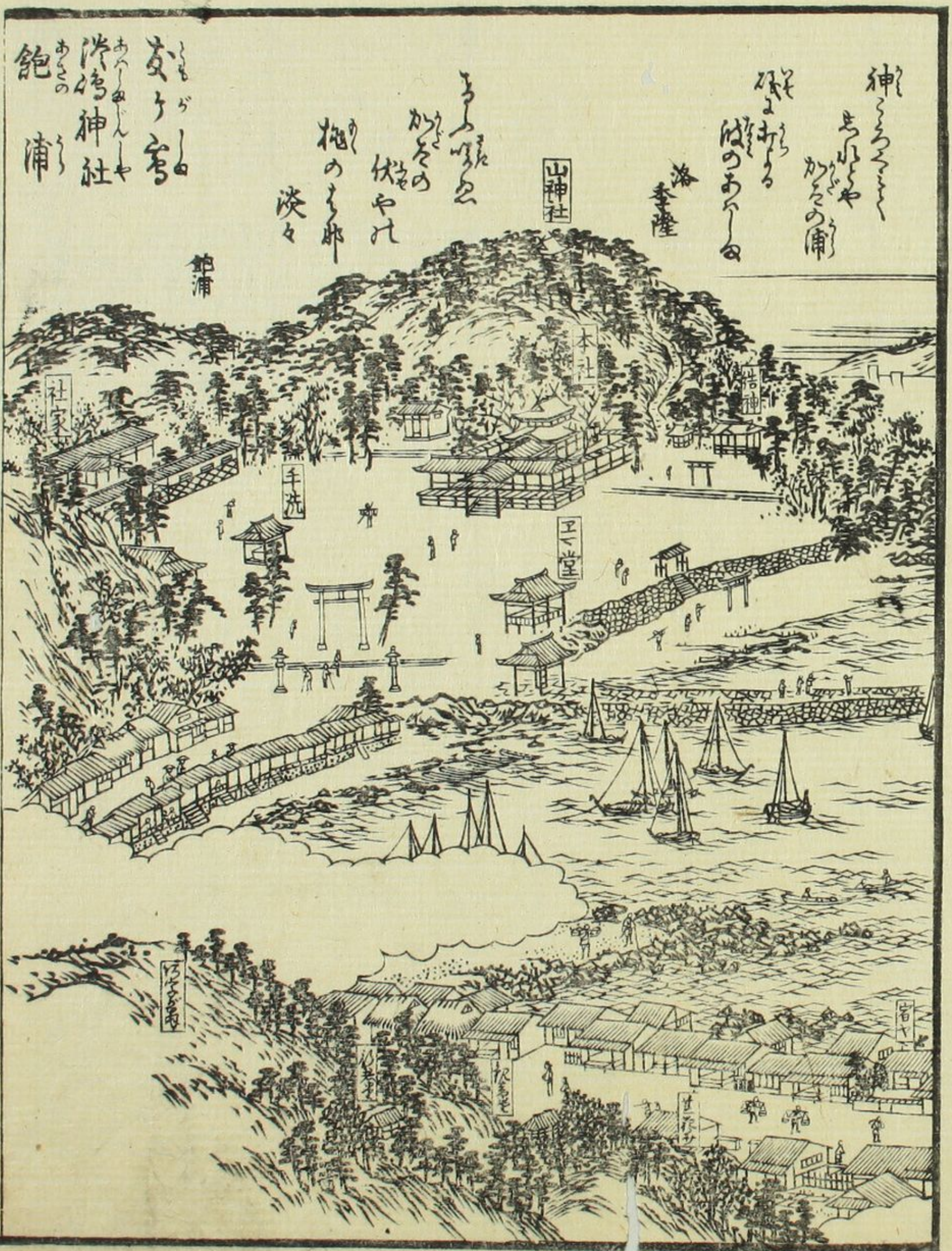


形見御鑑









鳩田八幡宮 日所の八幡宮なり

辨財天社 日所の八幡宮の傍にあり

尊圓山三宿谷経塚 日所の八幡宮の傍にあり

入江宿 日所の八幡宮の傍にあり

五福寺 日所の八幡宮の傍にあり

佛立常好寺 日所の八幡宮の傍にあり

本寺阿弥陀佛 日所の八幡宮の傍にあり

日所の八幡宮の傍にあり... 舟の儀ありて上下居候人あり... 舟の儀ありて上下居候人あり... 舟の儀ありて上下居候人あり...

迎之坊 日所の八幡宮の傍にあり

形見浦 日所の八幡宮の傍にあり... 舟の儀ありて上下居候人あり... 舟の儀ありて上下居候人あり...

此地の豊饒なるや杉原の津く浦くより江都へ運漕する海路の咽喉なりと諸回船の上下必ばこゝを以てするなり







名も國の神をよびてはくたやまき瀨をよつてある運嶽主人  
 のある所迎へて送る小女郎の姿かへりてくたばりしは  
 臨るるやか造りて居たりし眺を妹の鳴る武しよを  
 ひもろく河港の二面なるや時を結ぶの撰播の法もふ  
 とらるるくはまきおひたりぬまふらぬ布のすまふら  
 へ真あまの娘をよびて居るをりし其のくたばりしは  
 都も度邑ふらりし

江南竹枝歌

祇南海

即報歸期在月亦探得神籤整金鈿斜陽淡嶋在  
 影。不是房船定產船。木洲浦口十餘家皆是船商半生在  
 房薩備豐之地有數十年一選者

山櫻花開海苔肥雨々々踏青時沙岸潮未相推也

不拜崖頭去婦祠。地多海苔每歲三月三日潮落都下士女來採珠貝日  
 暮潮來而罷。浦口有少彦祠土俗相傳住吉太婦祠

花か〜をうくと春乃うと

宗徳

加を淡嶋大明神

加を浦の西有にあつた〜の名草致せん今海部郡に屬ん

紀の神四座 ○正殿 少彦名神 相殿左方 月讀命 右方  
延喜式神名帳曰紀伊國名草郡大神社 扶來畧記曰延喜六年二月七日授紀

氣足姫命 伊國粟嶋神從五位上 ○本國神名帳曰海部郡坐神從四位上粟嶋大明神  
 四時を終 三月二日○四月八日 ○祝詞舎 ○拜殿 ○神樂舎 ○神樂取

○文庫 ○押所廳舎 ○雞棲門 ○御厩 社頭海に濱

石五倍子挽石 皇太后御齒とすめりて用ひし人 ○潮石 社頭の監盤より出  
 増中言神 此の浦の神二座 名草郡の神也

延喜式神名帳曰紀伊國名草郡大神社 扶來畧記曰延喜六年二月七日授紀  
 伊國粟嶋神從五位上 ○本國神名帳曰海部郡坐神從四位上粟嶋大明神  
 三月二日○四月八日 ○祝詞舎 ○拜殿 ○神樂舎 ○神樂取  
 皇太后御齒とすめりて用ひし人  
 社頭の監盤より出  
 此の浦の神二座 名草郡の神也  
 延喜式神名帳曰紀伊國名草郡大神社 扶來畧記曰延喜六年二月七日授紀  
 伊國粟嶋神從五位上 ○本國神名帳曰海部郡坐神從四位上粟嶋大明神  
 三月二日○四月八日 ○祝詞舎 ○拜殿 ○神樂舎 ○神樂取  
 皇太后御齒とすめりて用ひし人  
 社頭の監盤より出  
 此の浦の神二座 名草郡の神也









ぐとちり神徳の其眉のうへに黒子と海とらんとてや西南  
乃らた浮出たり先加さなく舟を中し其の半の首ふりて  
上る所の其地はるる陸ふちうたふてさひひくちうたふて  
ゆの周囲や二里のさうあんち松有射してあて他の  
難掛るは凡し操りて各月然の趣とて時々潮氣に  
流るる氣血たるを食ひて外に酸醜けり赤松時赤砂甯  
鼓匡金碇眠處は乃諸傍ありとて未奇絶くもつた規  
盡く乃ち沖をふ向は其間相距をて其後一潮分はたあ  
に激すも鼓怒くも以て海をさへ混濁すて濁りけり  
潰渡たるは乃ち恰も百千の迅雷をを裂くとうらう揮師  
たるたての尾筒ふけきまきまに直ちたりや舟既は彼岸ふ  
らんして是れをむに教てる牆のて彼の回たさるりの  
舟が原した一斤の大石をて長と二十切もあるん産さ其の

こつらつらあり半より下におるもとて山の字をたてしと  
流るる舟のつらふかての足を空る一足ふあつたつとく  
しりて舟は滑りては流るるんとてりするうと足の  
踏ぐ手乃攣るるもたう唯とてりするうと進退かなく谷と  
凡誰う後あるもあつたはとんやあるしは屏風  
羊のと幾く雲く然りたり改母とりある明母のうと  
徐く急ぐ此のし幸して其絶巔を極るる但見一廻面は  
立竹林は救生藏悪観念崖序品崖閑伽丹深地池ぬ地木の敷  
字と彫るる是則圓初の付 南龍公の令ふらてまは極はら  
まら亦りてはまのまを各と人あまり恐動してすく亦風の  
若くはく一足とゆるくはるの若草をわらうに足まらう九  
下に穴あり徑はらふ二尺のうらあるが是より入るを觀念窟と  
に人まは猿猴の浮浪よ水を掬るることかたはまて下りて







今更く休庵を以て廢楠のてびける其突くして水の面  
に抜出するのの楹のく戦のて白のて新の術をたすが  
ごん其冠してさくるうごありて悉く名はくごご  
しん友崎の寺と稱するの觀るに比するのあり  
とていじりて送風とてこの地景をふくあれ  
かりとてたなり候しより其名をよぶとるんまご夥衆  
山とるあり其巢上より下をくだり下より攀へた  
ごもさうした處にうけてのまをさう鳴呼るの勢ふ  
るゆる險阻ふ岩をさけつらう安閑とてたのめること  
のこり送風を尚たし一爵禄をもくらんん光を鞘と  
送風送るる徒のたさきた似るるかより東北する  
と二百歩にして女濱あり其石まご寺もさども送風時よ  
くごあれやあごらありてさきたるるた勢いなり是

女の名のりしるよりお女斗崖石上松と生じてを夏の色とか  
たたたるる石のゆふ風よさしはまごあやむたるが海の中は  
風はよるるごごごごとならうごごごごの唐土の綿歩は  
つごやまより山の方へ送するん其を其ごやたごごは  
まご寺あり一牧る傷ありごご 園君龍種をさごご  
のふありちより庭してさふ山とると十町あまより浦浦に  
たる窪地池あり徑百歩なり行きの徒はくつ入是靈蛇の出  
定にして笛の音はきくをたごご美紀しるごごごご  
則命とせしたごごをいけはごごごごの甫宮乃貝と携  
るるごごごご護摩場あり修験の徒のけふ本と法と  
まごのふより碑の地のみより友崎の觀益やたはく  
度命にらごごごごごごごごごごごごごごごごご  
つごたりごごごごごごごごごごごごごごごごご

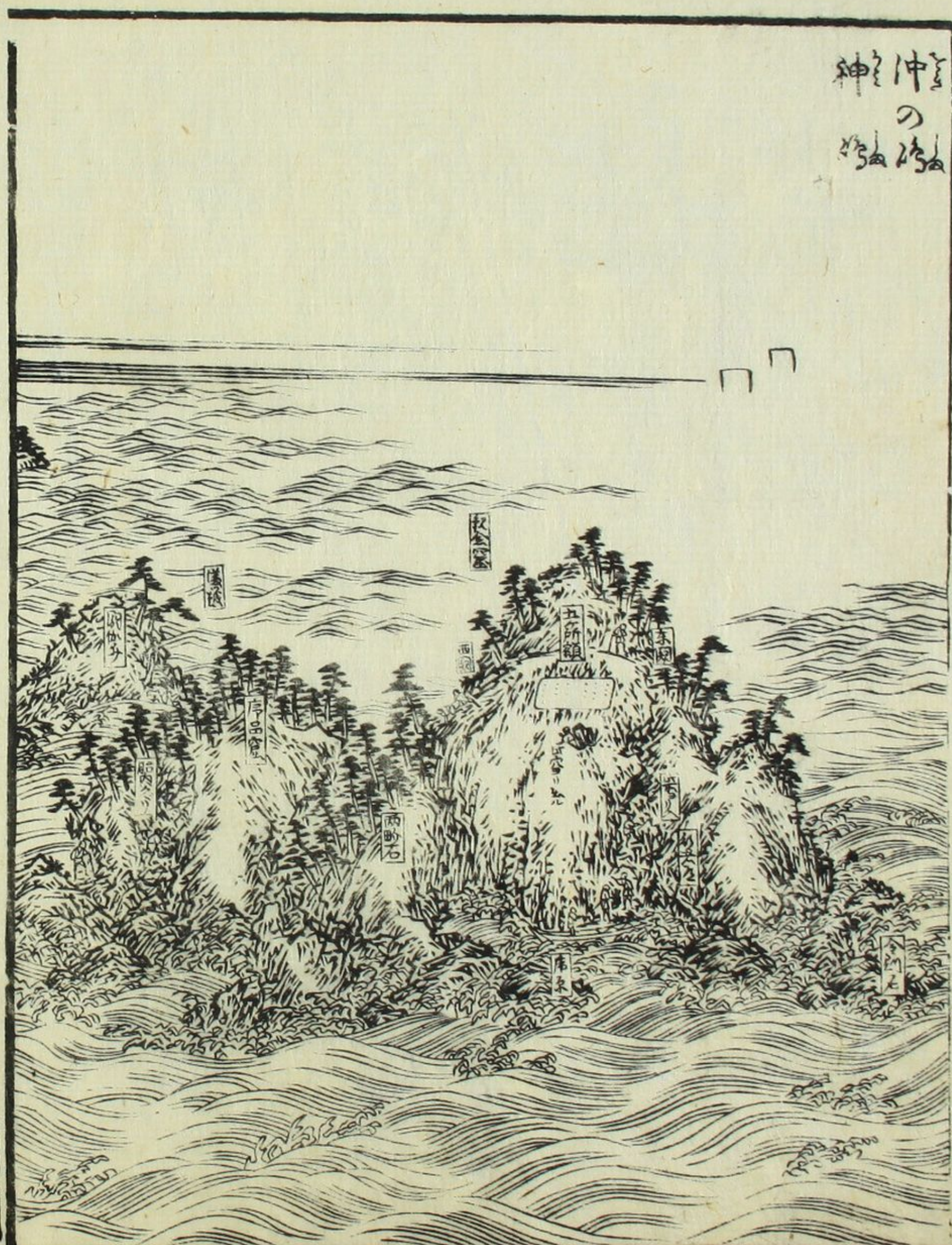
友嶋記  
紀國文學春川合衛襄平撰

海部西邊有友島多怪巖詭石奇卉異艸古傳以為神仙窟宅役小角修道所也余少有志今茲冬十月有公命探島中奇賞或為風雨阻不能果遂如行衽席上如右物引乃知天氣色如春一碧萬里波瀾不動如行衽席上如右物引乃知天氣色如地島曰沖島借愉快甚矣遂得窺其秘竅其蘊島三斷而浮可

之北畔上下為破裂狀者曰靦怒濤噴雨水齧所致也南下一百五十步許大石簌々林立海中移舟二岸接蔓葛上尋巨靈一擊裂者為序品窟其廣才可容人其高摩肩歌以入則恢々乎有餘地其始正黑左右模索而進神定而尋物側于崖樹碑曰妙法華經序品第一窟右懸石將墜不







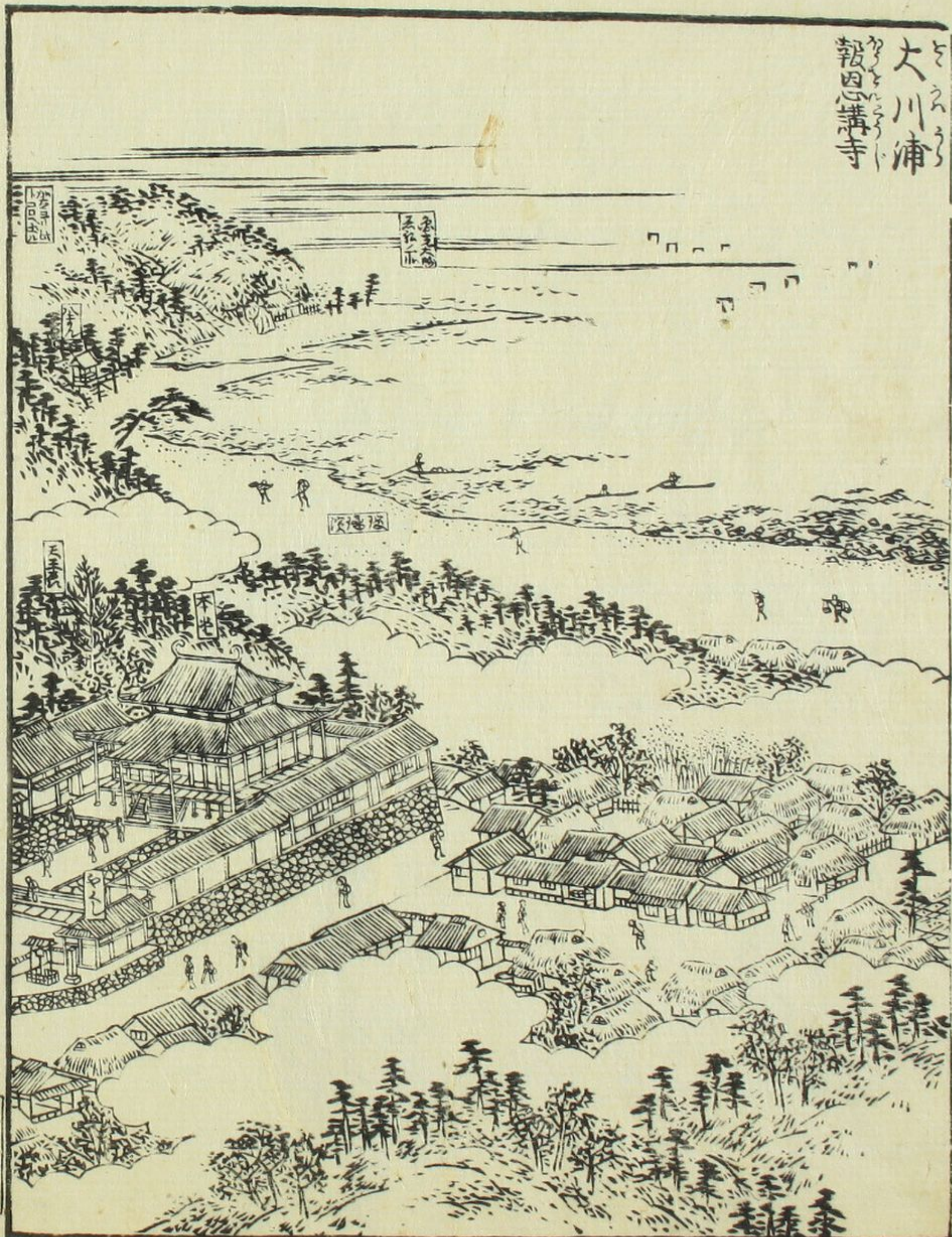


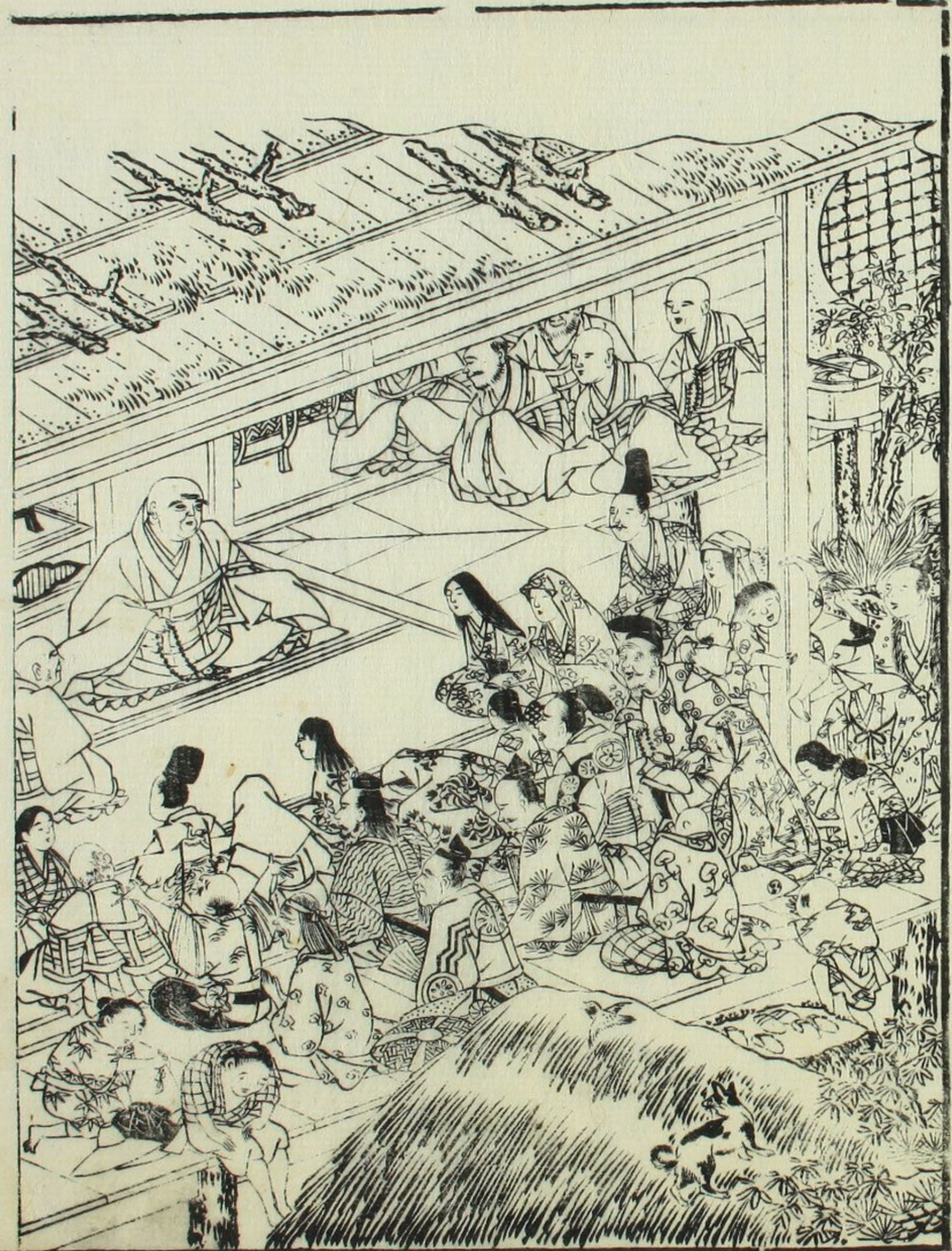




三十四

大川浦  
報恩講寺





夫當山念佛菩薩の像は生昔後を羽上皇院宣あつて大跡後次  
かた<sup>二</sup>世<sup>一</sup>あひしが災難をくつて救免の宣有なりし終に康二  
年冬の初降路の向りせあひ土別より船よめられたち小破ぬふ  
とらん<sup>二</sup>お<sup>一</sup>ふ<sup>二</sup>海<sup>一</sup>と風波あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>ぶ<sup>一</sup>以<sup>二</sup>た<sup>一</sup>十月廿日浦  
ある油生濱は船ごとくありあに不思議や浦の山ちら猫橋の之  
と<sup>二</sup>り<sup>一</sup>後去の重相まのあ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>二</sup>大<sup>一</sup>跡<sup>二</sup>地<sup>一</sup>に<sup>二</sup>各<sup>一</sup>の  
因縁成執の端さ<sup>二</sup>め<sup>一</sup>と<sup>二</sup>初<sup>一</sup>を地名と猫橋が浦も号たり<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>  
け浦の長<sup>二</sup>所<sup>一</sup>園架孫た<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>と<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>の<sup>一</sup>あり  
園三<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>小<sup>二</sup>海<sup>一</sup>像の公<sup>二</sup>う<sup>一</sup>た<sup>二</sup>の<sup>一</sup>ありあ<sup>二</sup>わ<sup>一</sup>げ<sup>二</sup>舟<sup>一</sup>と<sup>二</sup>園  
お<sup>二</sup>配<sup>一</sup>り<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>の<sup>二</sup>あり<sup>一</sup>  
ま<sup>二</sup>り<sup>一</sup>崇<sup>二</sup>敬<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>り<sup>一</sup>し<sup>二</sup>大<sup>一</sup>跡<sup>二</sup>も<sup>一</sup>渠<sup>二</sup>心<sup>一</sup>の<sup>二</sup>は<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>ざ<sup>二</sup>り<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>た<sup>二</sup>た<sup>一</sup>  
ま<sup>二</sup>し<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>ご<sup>一</sup>く<sup>二</sup>津<sup>一</sup>苗<sup>二</sup>ゆ<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>や<sup>一</sup>に<sup>二</sup>遠<sup>一</sup>近<sup>二</sup>の<sup>一</sup>送<sup>二</sup>信<sup>一</sup>き<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>た<sup>一</sup>油  
生<sup>二</sup>の<sup>一</sup>に<sup>二</sup>園<sup>一</sup>架<sup>二</sup>家<sup>一</sup>の<sup>二</sup>生<sup>一</sup>の<sup>二</sup>法<sup>一</sup>院<sup>二</sup>の<sup>一</sup>來<sup>二</sup>院<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>り<sup>一</sup>け<sup>二</sup>し<sup>一</sup>誰<sup>二</sup>  
の<sup>一</sup>

け<sup>二</sup>値<sup>一</sup>遇<sup>二</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>ん<sup>一</sup>と<sup>二</sup>共<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>な<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>ん<sup>一</sup>た<sup>二</sup>つ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>く<sup>一</sup>ぶ<sup>二</sup>く<sup>一</sup>な<sup>二</sup>を<sup>一</sup>  
あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>大<sup>一</sup>跡<sup>二</sup>像<sup>一</sup>を<sup>二</sup>な<sup>一</sup>れ<sup>二</sup>大<sup>一</sup>跡<sup>二</sup>愛<sup>一</sup>敬<sup>二</sup>の<sup>一</sup>津<sup>二</sup>心<sup>一</sup>を<sup>二</sup>念<sup>一</sup>佛<sup>二</sup>の<sup>一</sup>他<sup>二</sup>  
益<sup>二</sup>つ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>る<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>衆<sup>一</sup>人<sup>二</sup>は<sup>一</sup>昔<sup>二</sup>の<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>法<sup>一</sup>別<sup>二</sup>を<sup>一</sup>な<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>  
ら<sup>二</sup>せ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>ぶ<sup>一</sup>う<sup>二</sup>や<sup>一</sup>表<sup>二</sup>未<sup>一</sup>代<sup>二</sup>生<sup>一</sup>の<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>け<sup>二</sup>地<sup>一</sup>は<sup>二</sup>形<sup>一</sup>ん<sup>二</sup>と<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>し<sup>一</sup>  
と<sup>二</sup>上<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>る<sup>一</sup>仏<sup>二</sup>け<sup>一</sup>と<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>橋<sup>一</sup>の本<sup>二</sup>を<sup>一</sup>と<sup>二</sup>り<sup>一</sup>よ<sup>二</sup>せ<sup>一</sup>千<sup>二</sup>親<sup>一</sup>肖<sup>二</sup>像<sup>一</sup>  
を<sup>二</sup>刻<sup>一</sup>ま<sup>二</sup>せ<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ひ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>や<sup>一</sup>人<sup>二</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>と<sup>一</sup>一<sup>二</sup>解<sup>一</sup>ふ<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>そ<sup>一</sup>と<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>  
り<sup>二</sup>て<sup>一</sup>其<sup>二</sup>背<sup>一</sup>面<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ひ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>ち<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>鮮<sup>一</sup>血<sup>二</sup>を<sup>一</sup>か<sup>二</sup>く<sup>一</sup>と<sup>二</sup>奉<sup>一</sup>さ<sup>二</sup>る<sup>一</sup>未<sup>二</sup>小<sup>一</sup>海<sup>二</sup>  
と<sup>二</sup>せ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>不<sup>一</sup>さ<sup>二</sup>深<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>も<sup>二</sup>な<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>あり<sup>二</sup>衆<sup>一</sup>人<sup>二</sup>幸<sup>一</sup>矣<sup>二</sup>の<sup>一</sup>さ<sup>二</sup>い<sup>一</sup>と<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>  
あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>の<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>異<sup>二</sup>口<sup>一</sup>は<sup>二</sup>音<sup>一</sup>不<sup>二</sup>称<sup>一</sup>名<sup>二</sup>の<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>り<sup>二</sup>さ<sup>一</sup>  
推<sup>二</sup>に<sup>一</sup>ぬ<sup>二</sup>め<sup>一</sup>の<sup>二</sup>靈<sup>一</sup>像<sup>二</sup>は<sup>一</sup>湯<sup>二</sup>仰<sup>一</sup>の<sup>二</sup>け<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>法<sup>一</sup>塔<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>て<sup>一</sup>大<sup>二</sup>跡<sup>一</sup>海<sup>二</sup>の<sup>一</sup>  
と<sup>二</sup>像<sup>一</sup>な<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>て<sup>二</sup>自<sup>一</sup>の<sup>二</sup>物<sup>一</sup>と<sup>二</sup>深<sup>一</sup>く<sup>二</sup>一<sup>二</sup>幅<sup>一</sup>の<sup>二</sup>名<sup>一</sup>号<sup>二</sup>と<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>  
彼<sup>二</sup>餘<sup>一</sup>材<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>念<sup>一</sup>珠<sup>二</sup>と<sup>一</sup>は<sup>二</sup>う<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>こ<sup>一</sup>と<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>  
あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>結<sup>一</sup>縁<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>報<sup>一</sup>恩<sup>二</sup>を<sup>一</sup>あ<sup>二</sup>ら<sup>一</sup>う<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>  
あ<sup>二</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>二</sup>あ<sup>一</sup>ら<sup>二</sup>う<sup>一</sup>

約昏け名号にちあつひけ大玉珠とて林名にせりしとてな  
 りとて終りて十月下旬に船出しあつてにた  
 る人遺訓とてあつて報恩のつめけ地ふりて造立しつり  
 霊像と安しあり不斷も念の道場とけけ地後の群島  
 周擁しつり月夕ふまの光の燈しあつて倉法真道と  
 して潮音晨ふと世明の睡とてな流津世垢の世あり  
 ○什宝六字名号 ○榎木大念珠  
 大川村  
 ○産物 山ふ松 榎 馬目楮  
 章魚 鱈 鹿尾菜 桜苔 魚 海ふは 鱸  
 紀伊國名所圖會卷之三下終

寛政八年八月官輸上准  
 文化八年五月海宇發行



若山 高市志友編述  
 浪速 武内華亭刪輯  
 平安 西邨中和圖画  
 京師 渡邊玉壺齋書

一之卷上 浪華市田治郎兵衛  
 全 山崎庄九郎  
 平安 井上治兵衛  
 一之卷下 浪花山崎庄九郎  
 二之卷 京師井上治兵衛  
 三之卷上 全 同  
 三之卷下 浪速山崎庄九郎  
 右 刷人

紀伊國名所圖會

二編 海士那賀之部 仲秋發行

三編 伊都那賀之部  
 四編 有田日高之部  
 五編 牟婁郡之部  
 嗣 刻



江戸書林

須原屋 茂兵衛  
前川 六左衛門

名古屋書林

永樂屋 東四郎

京都書林

小川 多左衛門  
鈴屋 安兵衛

和歌山書林

帶屋 伊兵衛

大阪書林

糟屋 仁兵衛  
勝尾屋 六兵衛  
河内屋 太助

教訓 繪入 閨路指南車

全二冊

阿州和田耕齋著  
浪花虫川半山画  
人好欲する所の家業繁栄一富貴なりて子孫永続を  
務むるは善道なり過く悪道之非もむく人も此書に  
具まらざるは善道之翻り父母存養成行く  
主人へ忠告を以てて家内和合し自らも家業繁  
栄此心も安樂し子孫長久しき事近き事  
ありしはくねりてくねりて書なり

弘化三丙午新版

浪速書林 河内屋喜兵衛

